

第5回協議会における委員の主な意見要旨（「交通ビジョンの検討」に関係するもの）

- ① 「住みやすいまちづくり」の一つが、交通網の充実であると思う。「目指すべき将来像」や、それを実現するための「実施施策」などを議論していく中で、具体的な話が出てくるのではないかと思います。[藤原会長]
- ② 「自家用車の都心部流入を抑制する」という考え方には賛同するが、実際の所、実現は難しいと思う。現実的に考えると、企業などに協力してもらい「時差出勤」や「自家用車通勤の抑制」などのソフト対策も考える必要があるのではないかと。[藤岡委員]
- ③ 「シームレス」や「ミッシングリンク」のような専門用語的な言い回しについて、分かり易い語句への変更や注釈を入れる等、一般市民に伝わりやすいよう配慮した方が良いのではないかと。[藤岡委員]
- ④ 「自家用車の都心部流入を抑制する」旨の記載に関して、現在、都心部のスポンジ化等の進展により空き地にコインパーキング等が設置されているとともに、過去、自家用車が多く使われていた時代に設置された立体駐車場などが多くあり、自家用車が都心部に来やすい環境になっているのではないかと感じる。例えば、フリンジ駐車場等を整備することにより、都心空間への自家用車の流入を防げるのではないかと。[栢委員]
- ⑤ 「新たなモビリティサービス」に関する記載について、もう少し踏み込み、交通や人の流れをリアルタイムによるデータ取得により把握していくようなスマートシティ的な取組等を取り入れてはどうか。[栢委員]
- ⑥ 「自家用車の都心部流入を抑制する」旨の記載に関し、“マチナカへの流入”に言い換えた方が良いのではないかと。[渡邊委員]
- ⑦ 最近は“道路空間の再配分”と言われており、車道空間をいじめて歩道空間を広げる等、新しい試みも出てきているため、“歩道の拡幅整備”のように道路空間の再配分も考えているということを滲み出すような記載にすると良いのではないかと。[渡邊委員]
- ⑧ 広域交流に関して、道路に関する記載しかないことから、例えば、四国と連絡する船舶や、港湾・空港とマチナカのアクセスをどうするのかといった、公共交通で支える広域交通に関する視点もあっても良いのではないかと。[渡邊委員]
- ⑨ トラックによる物流においては、荷さばきのために車を停める必要があることから、物流の中にそうした観点も取り入れてほしい。[田中委員代理]
- ⑩ 交通環境の整備においては、物理的な整備も重要であるが、公共交通の乗降に時間が掛かる人に対する思いやりなど、「人的な公共環境の整備」という観点も必要ではないかと。[原田委員]
- ⑪ 「利用者にとって分かりやすく使いやすい公共交通サービスの充実・強化」とあるが、「充実・強化」という表現ではなく、「連携」や「共生」という表現にするべきではないかと。また、「公共交通サービス」という表現についても、従来の単純な公共交通サービスではなく、「多様な公共交通サービス」という表現にするべきではないかと。[藤原会長]

- ⑫ 「地域特性に応じた持続可能な移動手段の確保」の表現について、例えば「人と地域のダイバーシティ(多様性)に配慮した」といった表現にしなければ、これからの時代に合わないと思う。
- ⑬ これまでの各都市における都市・地域総合交通戦略は、「街全体の街の容量に対して、どのくらいの交通量を受け入れるつもりである」といった全体的な話が無く、「交通需要がこうです。人がこのように動いています。だから、ここの交通をこうします」といったように、現状に起きていることに追従しているだけのようなものになってしまっている。「こういう街にしたい。」、「観光客は何人くらい受け入れたい。」、「住んでいる人にはこのくらい移動してほしい。そのうち何割は公共交通、何割は自動車で移動してほしい」といったような、大きなビジョンが必要ではないか。[藤原会長]